

●診療科の特色

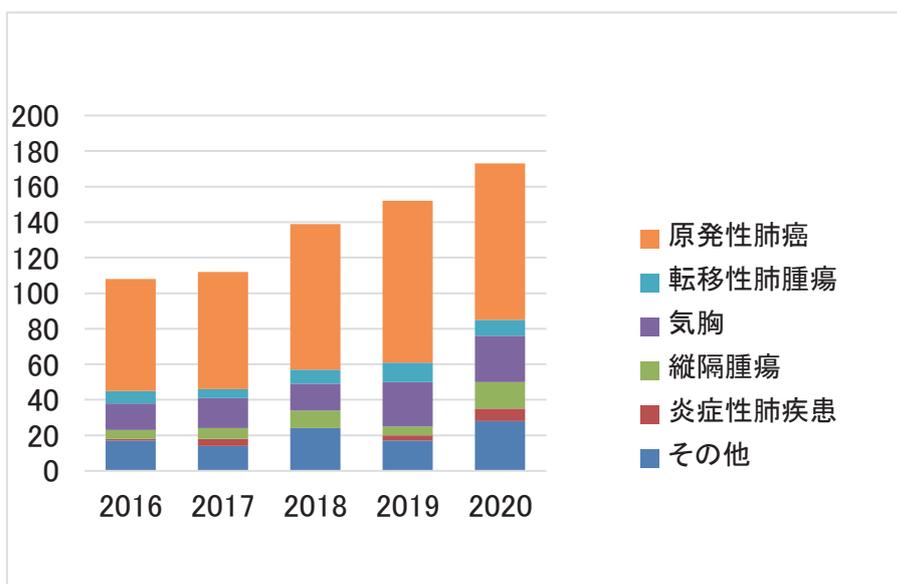
1. 呼吸器外科では胸の中にある肺、縦隔などの病気を中心に手術を行っています。病気の診断、評価は呼吸器内科、放射線科、病理診断科と連携して行われ、手術で良くなる状況かどうかを判断しています。
2. 手術症例の6～7割は肺がんであり、命に関わる病気でもあるため肺がんには最も力を入れています。がんを治すことにこだわり、手術手技はもちろん、放射線、薬物療法を組み合わせることにより手術で治るかどうか、ぎりぎりのところで差のつく高度な医療を提供できるよう心掛けています。
3. 気胸、縦隔腫瘍などの多くの病気、難治性の病気などに対しても対応しています。最近増えている肺気腫、間質性肺炎、塵肺などに合併する難治性の気胸に対しては根気よく治療にあたる必要があり呼吸器内科、放射線科と話し合い、多くの治療戦略を立てて対応しています。
4. 胸腔鏡下手術に関してですが、当院では患者さんへの手術による体の負担、痛みを減らすため、また創部の綺麗さにこだわって、積極的に導入してきました。手術器具も年々進化しており、より安全になっています。さらに身体への負担を少なくする試みもありますが、当院の役割としては実績ある手技の技術を限りなく高めて患者さんに提供するスタンスです。
5. 一般に肺の手術は難易度が高い手技とされています。安全、かつ確実な手術を提供できるよう日々努めています。手術に入るスタッフが固定しているため安定した医療を提供できていると思います。

●入院診療実績

1. 主要手術(全身麻酔) 年間手術件数 169件

	手術名	件数
1	原発性肺癌	91
2	転移性肺腫瘍	7
3	気胸	27
4	縦隔腫瘍	14
5	その他	30

手術件数の推移(全身麻酔)



2. その他

2020年度は呼吸器外科スタッフとして鳥越 英次郎先生が加わりました。
患者さんをよく見る信頼できる先生です。

● 研究業績

1. 論文発表

- 1) M. Yamane; S. Sugimoto; E. Suzuki; K. Aokage; M. Okazaki; J. Soh; M. Hayama; Y. Hiram; T. Yorifuji; S. Toyooka. Continuing surgical education of non-technical skills. *Annals of Medicine and Surgery*.58:177-186. 2020 Oct
- 2) M. Yoshikawa; Y. Hiram. Surgery for right upper lobe lung cancer in a patient with bridging bronchus; *Ann Thorac Surg*.2020 May
- 3) 肺末梢の嚢胞内に認められた孤立性扁平上皮乳頭腫の一例
吉川真生、平見有二、三好健太郎、安藤陽夫
日本気胸・嚢胞性肺疾患学会雑誌 21 20~24 2021年3月25日
- 4) 乳癌に対するペバシズマブ併用化学療法中に発症した気胸に対して胸腔鏡下ブラ切除+胸膜癒着術を行った一例
山原美穂、吉川真生、林直宏、鳥越英次郎、秋山一郎、平見有二
日本気胸・嚢胞性肺疾患学会雑誌 21 20~24 2021年3月25日

2. 学会、研究会

- 1) 右肺の上中葉が一葉となり、右下葉気管支が左主気管支より分岐する変異を合併した右上葉肺癌の1手術例
吉川真生、平見有二、林直宏、安藤陽夫
第37回 日本呼吸器外科学会学術集会 2020年9月29日
- 2) 間質性肺炎に合併した難治性気胸に対して肋骨床開胸、有茎肋間筋弁被覆術を行った2例
平見有二、吉川真生、安藤陽夫

- 第 37 回 日本呼吸器外科学会学術集会 2020 年 9 月 29 日
- 3) 術前に責任病変を同定し得なかった傍脊柱ヘチマ型ブラによる自然気胸の 2 例
吉川真生、林直宏、平見有二
- 第 37 回 日本呼吸器外科学会学術集会 2020 年 9 月 29 日
- 4) 術前に責任病変を同定し得なかった傍脊柱ヘチマ型ブラによる自然気胸の 2 例
松岡篤志、林直宏、鳥越英次郎、平見有二
- 第 95 回中国四国外科学会総会・第 25 回中国四国内視鏡外科学会研究会
2020 年 10 月 8 日
- 5) 気管下部の腺様嚢胞癌に対しての胸骨正中切開アプローチにおいて十分な視野
展開を得た一例
林直宏、松岡篤志、鳥越英次郎、平見有二
- 第 95 回中国四国外科学会総会・第 25 回中国四国内視鏡外科学会研究会
2020 年 10 月 8 日
- 6) 間質性肺炎合併肺癌の手術に対する当院の取り組み
鳥越英次郎、松岡篤志、林直宏、平見有二
- 第 61 回 日本肺癌学会 2020 年 11 月 12 日
- 7) 肺類基底細胞型扁平上皮癌の 1 切除例
松岡篤志、林直宏、鳥越英次郎、平見有二
- 第 61 回 日本肺癌学会 2020 年 11 月 12 日
- 8) 微小浸潤性腺癌(cT1mi)と判断し肺切除術を行った症例の検討)
林直宏、松岡篤志、鳥越英次郎、平見有二
- 第 61 回 日本肺癌学会 2020 年 11 月 13 日
3. 講演
- 1) エネルギーデバイス新製品に関するインタビュー
平見 有二
2020 年 8 月 29 日
- 2) 肺癌手術における自動縫合器使用時のエアリーク発生状況
平見 有二
岡山医療センター 2020 年 10 月 26 日

● 診療科の特色

- 1) 当科は常勤医 3 名、レジデント 2 名で診療しており、成人の泌尿器科疾患全般を扱っています。診療の特色としては、癌患者が多数を占めており、増加傾向にあります。当科では、今後も泌尿器科癌を診療の中心として、この地域での「がんセンター」を目指したいと考えています。
- 2) 例年通り、手術は膀胱癌に対する経尿道的膀胱腫瘍切除術がもっとも多く、その次は前立腺肥大症に対する経尿道的手術になります。出血量が少ないバイポーラ電極による核出術を採用しており良好な成績となっています。さらに上部尿路結石に対する経尿道的尿路結石除去術が続きます。
- 3) 移植用腎採取術(ドナー腎摘除術)を泌尿器科が担当しています。腎移植外科と協力して、中国・四国地方における拠点施設として腎移植医療の一翼を担っています。
- 4) がんの治療に関しては、患者さまと一緒に考え、手術、化学療法、放射線治療など高度で良質な医療を提供するように心がけています。

● 入院診療実績

1. 主要手術

年間手術件数 517 件

	手術名	件数
1	副腎摘除術	4
2	腎摘・腎部分切除術	12
3	腎尿管全摘除術	4
4	経尿道的尿路結石除去術	38
5	移植用腎採取術	10
6	膀胱全摘除術	4
7	経尿道的膀胱腫瘍切除術 (TURBT, TURBO)	105
8	根治的前立腺全摘除術	34
9	経尿道的前立腺切除術 (TURP, TUEB)	44
10	前立腺生検	103

2. 尿路結石に対する手術

2020 年 6 月よりホルミウムヤグレーザー(EMS 社: SWISS LASERCLAST®)を導入し経尿道的尿路結石除去術による結石治療を開始しました。

手術は尿道から硬性、もしくは軟性尿管鏡(内視鏡)を尿管や腎まで挿入し、直接結石を確認しながら、レーザーを用いて破碎します。破碎された結石をバスケットカテーテルで回収するため、安全かつ確実に破碎から摘石可能です。軟性鏡を用いる手術は f-TUL: flexible transurethral lithotripsy、硬性鏡を用いる手術は TUL: transurethral lithotripsy と呼ばれ、結石のある場所で使い分けします。

当院の最新のレーザー機器は従来の碎石モードに加え、ダスティングという結石を跳ねさせずに砂状に碎石できるモードを備え、より効率に手術を行うことができます。手術は腰椎麻酔、もしくは全身麻酔

下に行い、入院期間は3～7日程度です。患者様の状態や希望に沿って治療を行っています。



● 研究業績

1. 論文発表

- 1) K. Ito; S. Mikami; N. Kuroda; Y. Nagashima; K. Tatsugami; N. Masumori; T. Kondo; T. Takagi; S. Nakanishi; M. Eto; T. Kamba; Y. Tomita; H. Matsuyama; T. Tsushima; H. Nakazawa; M. Oya; G. Kimura; N. Shinohara; T. Asano; Difficulty in differential diagnosis for renal cancer with microscopic papillary architecture: overlapped pathological features among papillary renal cell carcinoma (RCC), mutinous tubular and spindle cell carcinoma, and unclassified RCC. Lessons from a Japanese multicenter study; Japanese Journal of Clinical Oncology.50(11); 1313-1320.2020 Nov
- 2) 転移性腎盂・尿管癌に対する一次化学療法
津島知靖
泌尿器外科 33 5 485-488 2020年5月15日
- 3) 膀胱癌に続発した両側上部尿路上皮癌に対して全尿路摘出術を施行した1例
林 あずさ, 市川孝治, 津島知靖, 土井啓介, 窪田理沙, 井上陽介
西日本泌尿器科 82 3 408-412 2020年8月20日
- 4) 排尿障害を伴う全周性尿道憩室に対して外科的治療を行った1例
松尾聡子, 谷本竜太, 杉本盛人, 津島知靖, 中村あや, 定平卓也, 和田里章悟, 小林泰之, 荒木元朗, 渡邊豊彦, 那須保友
西日本泌尿器科 82 5 514-517 2020年12月20日

2. 学会、研究会

- 1) 小児外科での1か月の経験
林 あずさ

- 第 323 回日本泌尿器科学会岡山地方会 2020 年 5 月 23 日
- 2) 日本泌尿器科学会保険委員会報告
津島知靖
- 第 323 回日本泌尿器科学会岡山地方会 2020 年 5 月 23 日
- 3) Globicatella sanguinis urinary tract infection: a case report
Hiromasa Shiraishi
- 第 74 回国立病院総合医学会 2020 年 10 月 17 日
- 4) 腎盂癌に対し Pembrolizumab 投与後に自己免疫性髄膜脳炎を来した 1 例
平岡悠飛
- 第 72 回西日本泌尿器科学会総会 2020 年 11 月 5 日
- 5) 当院で経験した細菌性髄膜炎の 1 例
今谷紘太郎
- 第 72 回西日本泌尿器科学会総会 2020 年 11 月 5 日
- 6) 当院での pT1a 腎癌に対する腎部分切除術の検討
久住倫宏
- 第 72 回西日本泌尿器科学会総会 2020 年 11 月 5 日
- 7) ORBEYE(オーブアイ)を使用した精索静脈瘤手術の検討
林 あずさ
- 第 34 回日本泌尿器内視鏡学会総会 2020 年 11 月 19 日
- 8) 当院で経験した転移性尿管腫瘍の 2 例
佐久間貴文
- 第 34 回日本泌尿器内視鏡学会総会 2020 年 11 月 19 日
- 9) 当院での腹腔鏡下腎部分切除術の検討
久住倫宏
- 第 34 回日本泌尿器内視鏡学会総会 2020 年 11 月 19 日
- 10) 治療に難渋した両側腎周囲膿瘍の 1 例
平岡悠飛
- 第 325 回日本泌尿器科学会岡山地方会 2020 年 12 月 12 日
- 11) 腹腔鏡, 後腹膜鏡どちらの疼痛が強いのか—体腔鏡下副腎摘除術による検討—
市川孝治
- 第 108 回日本泌尿器科学会総会 2020 年 12 月 22 日
- 12) 当院における根治的膀胱全摘除術の検討
佐久間貴文
- 第 108 回日本泌尿器科学会総会 2020 年 12 月 23 日
- 13) M0 腎癌術後の再発症例の検討
久住倫宏
- 第 108 回日本泌尿器科学会総会 2020 年 12 月 23 日
- 14) Hormone-Sensitive Prostate Cancer (HSPC) に対するホルモン療法
津島知靖
- 日本臨床泌尿器科医会第 16 回臨床検討会 2020 年 11 月 22 日

- 15) 保険教育プログラム 知って得する泌尿器科保険診療の基礎的知識
津島知靖
第 72 回西日本泌尿器科学会総会 2020 年 11 月 5 日
- 16) 「HoLEP 失禁のない核出術を実現しよう」失禁の無い核出術 TUR 習熟者の工夫
市川孝治
第 34 回日本泌尿器内視鏡学会総会 2020 年 11 月 20 日
- 17) フルニエ壊疽の 1 例
白石裕雅
第 307 回岡山泌尿器科カンファレンス 2021 年 1 月 26 日
- 18) 2020 年岡山医療センター手術統計
市川孝治
第 326 回日本泌尿器科学会岡山地方会 2021 年 2 月 27 日

● 診療科の特色

消化器外科(上部消化管・下部消化管・肝胆膵)、乳腺・甲状腺外科を中心に臓器別診療体制を導入し、外傷などの外科救急対応を含み幅広い診療を行っている。スタッフは消化器外科7名に、乳腺・甲状腺外科2名で、外科専修医 2 名が加わり、活気に満ちた診療科になっており、各々専門性を出しながら弾力的に担当をしている。

消化器外科では、腹腔鏡手術の頻度が増え、胆嚢炎・ソケイヘルニアなどの良性疾患以外に、胃癌・大腸癌などの悪性腫瘍にも用いられ、年間 200 例を超える。肝胆膵外科は、高度技能指定病院として安定した成績を収めている。肝切除や膵尾部切除にも腹腔鏡手術を導入している。外科全体として、根治性を損なわず合併症の少ない、体にやさしい手術を目指している。

乳腺・甲状腺外科では、傷のきれいな手術を心がけており、甲状腺手術では内視鏡手術を行っている。

腹腔鏡下手術の増加に伴い、スキルアップラボやシミュレーターを用いた研修や実技試験に積極的に参加し、手術手技の向上を図っている。

● 入院診療実績

1. 主要手術

年間手術件数 863 件

	手術名	件数
1	結腸・直腸手術	135
2	胆嚢摘出術	111
3	胃切除術	33
4	ソケイ・腹壁ヘルニア手術	83
5	甲状腺・上皮小体手術	44
6	肝切除術	22
7	乳腺切除術	72
8	虫垂切除術	45
9	急性腹膜炎手術	17
10	小腸切除術	25

● 研究業績

1. 論文発表

- 1) T. Kojima; Y. Umeda; T. Fuji; T. Niguma; D. Sato; Y. Endo; K. Sui; M. Inagaki; M. Oishi; T. Ota; K. Hioki; T. Matsuda; H. Aoki; R. Hirai; M. Kimura; T. Yagi; T. Fujiwara. Efficacy of surgical management for recurrent intrahepatic cholangiocarcinoma: A multi-institutional study by the Okayama Study Group of HBP surgery. Plos One.15(9)15.2020 Sep
- 2) K. T. Sui; T. Okabayashi; Y. Umeda; M. Oishi; T. Kojima; D. Sato; Y. Endo; T. Ota; K. Hioki; M. Inagaki; T. Matsuda; R. Hirai; M. Kimura; T. Yagi; T. Fujiwara. Prognostic Utility of the Glasgow Prognostic Score for the Long-Term Outcomes After Liver Resection for Intrahepatic Cholangiocarcinoma: A

2. 学会、研究会

- 1) レンバチニブを投与した分化型甲状腺癌 12 例の好中球・リンパ球比(NLR)の検討
秋山 一郎
第 32 回 日本内分泌外科学会 2020 年 9 月 17 日
- 2) 気管狭窄をきたした Basedow 病の 1 例
野上 智弘
第 32 回 日本内分泌外科学会 2020 年 9 月 17 日
- 3) 急性胆嚢炎との鑑別を要した肝原発悪性リンパ腫の経験
久保 孝文
第 56 回 日本胆道学会学術集会 2020 年 10 月 1 日
- 4) 術前診断し得た高齢者メッケル憩室茎穿孔の 1 例
塩入 幹汰
第 56 回 日本腹部救急医学会総会 2020 年 10 月 8 日
- 5) 当院で経験した乳腺原発印環細胞癌の 1 例
野上 智弘
第 28 回 日本乳癌学会学術総会 2020 年 10 月 9 日
- 6) 内視鏡外科技術認定(大腸)取得に向けた当院の取り組み
瀬下 賢
第 19 回 EGI 外科治療研究会 2020 年 10 月 10 日
- 7) 2.5 年の経過観察後に切除した良性葉状腫瘍の 1 例
秋山 一郎
第 17 回 日本乳癌学会中国四国地方会 2020 年 10 月 24 日
- 8) 献腎移植において移植後 1 年目の腎機能に関する臨床因子の検討
藤原 拓造
第 56 回 日本移植学会 2020 年 11 月 1 日
- 9) 急性肝炎で発見された肝原発悪性リンパ腫の 1 例
久保 孝文
第 56 回 日本腹部救急医学会総会 2020 年 11 月 1 日
- 10) 腹膜前脂肪のみが脱出した若年白線ヘルニアに対して腹腔鏡下に修復を行った 1 例
柿下 大一
第 18 回 日本ヘルニア学会学術集会 2020 年 11 月 3 日
- 11) A Case of Laparoscopic Surgery for Ascending Colon Cancer with an Abdominal Mesh
瀬下 賢
第 75 回 日本消化器外科学会総会 2020 年 12 月 15 日
- 12) 幽門の巨大な胃癌と十二指腸癌の重複癌に対して術中十二指腸 ESD を併誌することで根治切除できた 1 例
柿下 大一
第 75 回 日本消化器外科学会総会 2020 年 12 月 15 日

- 13) 大腸癌の術前 3D-CT で発見された Segmental arterial mediolysis (SAM) の 1 例
 向原 史晃
 第 75 回 日本消化器外科学会総会 2020 年 12 月 15 日
- 14) 生着 20 年以上の腎移植レシピエントの臨床的検討
 藤原 拓造
 第 54 回 日本臨床腎移植学会 2021 年 2 月 19 日
3. 講演
- 1) 大腸外科手術における癒着防止材使用の現状調査
 國末 浩範 2020 年 10 月 1 日
- 2) 直腸 DST 再建における自動縫合器・吻合器の使用状況調査
 國末 浩範 2021 年 2 月 28 日
- 3) CHUGAI BRESAT CANER SYMPOSIUM in OKAYAMA
 秋山 一郎
 ホテルグランヴィア岡山 2020 年 12 月 11 日

● 診療科の特色

当科は腎代替療法の一つとしての腎移植をドナー、レシピエントの評価、選定から移植手術、術後の免疫抑制療法まで一貫して担当しています。当院では1988年より腎移植を開始、2020年までに生体334例、献腎94例の合計428例の腎移植を行っています。当院は日本臓器移植ネットワークの特定移植検査施設であり、臓器移植登録時のHLAタイピング、血清の保存等の業務を担当しており、また岡山県臓器バンクと共同で臓器移植の推進、啓蒙などの社会活動も行っていきます。

● 入院診療実績

1. 主要手術 年間手術件数

	手術名	件数
1	生体腎移植	14
2	献腎移植	3
3	腹膜透析カテーテル留置術、抜去術	28

2. 昨年度より当科の専従医が1名増員となり、また小児外科に小児腎移植の専門医も配置され、さらに充実した診療が提供出来るものと思います。

● 研究業績

1. 論文発表

なし

2. 学会、研究会

- 1) 献腎移植において移植後1年目の腎機能に關与する臨床因子の検討

藤原拓造

第56回日本移植学会総会

2020年11月18日

- 2) 生着20年以上の腎移植レシピエントの臨床的検討

藤原拓造

第54回日本臨床腎移植学会

2021年2月19日

3. 講演

なし

● 診療科の特色

小児外科では、新生児から中学生までの頸部、胸部、腹部、腎尿路、婦人科領域の外科的疾患を扱っている。小児外科指導医 2 名(常勤医1名、非常勤医1名)、小児外科専門医 3 名(常勤医 3 名)、小児泌尿器科認定医 4 名(常勤医 3 名、非常勤医 1 名)、小児がん認定外科医 1 名(常勤医 1 名)、腎移植認定医 2 名(常勤医1名、非常勤医 1 名)、周産期新生児学会認定外科医 1 名が在籍(重複あり)している。小児外科救急疾患に関しては基本的に 24 時間、常時対応している。当院は総合周産期母子センターに指定されており、新生児外科疾患も数多く扱っている。近年では胎児診断症例も増えているため、出生前からの検査や管理、出産後の治療まで産婦人科、新生児科と連携して行っている。悪性固形腫瘍(神経芽腫、腎芽腫、肝芽腫、横紋筋肉腫、奇形腫など)の治療に関しては、国内のスタンダードグループのプロトコールに準じて行っており、良好な結果が得られている。当科は小児泌尿器科疾患の治療も長年にわたり行っており、小児外科と小児泌尿器科両方の知識と技術を必要とする総排泄遺残症、外反症、などの治療経験も豊富である。また総排泄腔専門外来も有している。また小児腎移植も担当し、本年度は 3 例施行している。

● 入院診療実績

1. 主要手術

年間手術件数 594 件

	手術名	件数
1	鼠径ヘルニア根治術	140
2	停留精巣固定術	88
3	臍ヘルニア手術	62
4	急性虫垂炎手術	25
5	膀胱尿管逆流症手術	10
6	小児固形腫瘍手術	11
7	尿道下裂関連手術	9
8	水腎症手術(腎盂形成)	4
9	重症心身障害児の手術	22
10	新生児外科手術	13

2. その他

● 教育・研修

小児外科専門医を取得でき、また実力の伴った小児外科医を育てるべく、当院の外科、小児科、新生児科と連携した研修を行ってもらっている。研修に関してはNPO法人中国四国小児外科医療支援機構に所属する他施設(倉敷中央病院、島根大学付属病院、四国こどもとおとなの医療センター、山口県立総合医療センター)と連携を図っている。

● 海外小児外科医療支援

国際ボランティア組織であるジャパンハートと協力し、年に2度ミャンマーもしくはカンボジアにて数

多くの主要な手術を施行してきた。新型コロナの感染拡大のため、渡航が困難となり、本年度は2名の肝芽腫の乳児を受け入れ、肝切除術および化学療法による治療を行った。また、カンボジアの病院とは定期的に治療方針に関して、Webカンファレンスを行っている。

● 低侵襲手術

膀胱尿管逆流症に対しては膀胱鏡下 Deflux 注入療法を施行している。鏡視下手術は虫垂炎切除術、鼠径ヘルニア根治術、噴門形成術、腎盂形成術、脾臓摘出術、良性腫瘍摘出術、高位鎖肛根治術、ヒルシスプルング病(long segment)根治術、肺切除術など積極的に施行している。手術術式として従来の開腹、開胸手術の方が安全で、精度が高いと考えられる疾患に関しては現時点では適応としていない。

小児外科ホームページ(<http://www.shonigeka.com/>)で当科の詳細を公開している。

● 研究業績

1. 論文発表

- 1) 小児慢性腎臓病患者における腎移植前後の基礎代謝量
高橋雄介
臨床腎移植学会雑誌 8 2 244-247 2020年12月10日
- 2) 排尿時膀胱尿管造影における膀胱尿管逆流出現のタイミングと腎瘢痕の関係性の検討
中原康雄、仲田惣一、人見浩介、花木祥二郎、後藤隆文、青山興司
第28回日本逆流性腎症フォーラム記録集 31-32 2020年発刊
- 3) 早産児における卵巣過剰刺激症候群の2例
仲田惣一、中原康雄、人見浩介、福嶋ゆう、中村信、影山操
日本周産期・新生児医学会雑誌 56 1 154-157 2020年発刊
- 4) Sotos 症候群に肝芽腫を合併した1例
上野悠、片山修一、後藤隆文、中原康雄、人見浩介
日本小児外科学会雑誌 56 6 939-943 2020年発刊
- 5) 【そこが知りたいシリーズ:手術で必要な局所解剖(腹壁・後腹膜・泌尿器・腫瘍編)】膣形成
後藤隆文、中原康雄、高橋雄介、大倉隆宏、花木祥二郎、石橋脩一、浮田明見
小児外科 52 10 1085-1090 2020年発刊

2. 学会、研究会

- 1) 集中治療管理を要した神経芽腫 StageMS の1例
花木祥二郎
第61回 中国四国小児がん・小児外科研究会 2020年5月1日
- 2) 小児急性虫垂炎における虫垂内細菌培養と便培養の検討
花木祥二郎
第57回 日本小児外科学会学術集会 2020年9月20日
- 3) どのように小児外科手術修練を行うべきか
花木祥二郎
第57回 日本小児外科学会学術集会 2020年9月20日
- 4) 腹腔鏡下に閉鎖し得た先天性膀胱腫瘍の1例

- 中原康雄
第 57 回日本小児外科学会学術集会 2020 年 9 月 20 日
- 5) 小児外科医の育成について—NPO 法人中国四国小児外科医療支援機構の現状
中原康雄
第 57 回日本小児外科学会学術集会 2020 年 9 月 21 日
- 6) 腎移植後 E 型肝炎の 2 例
高橋雄介
第 56 回日本移植学会総会 2020 年 11 月 20 日
- 7) 小児における Reflux-associated cholecystopathy の検討
大倉隆宏
第 43 回日本膵・胆管合流異常研究会 2020 年 11 月 21 日
- 8) Dexmedetomidine-associated hyperthermia と考えられる発熱を生じた重症心身障害者の 1 例
大倉隆宏
第 59 回日本小児外科学会中国四国地方会 2020 年 11 月 28 日
- 9) 当科の自然気胸に対する胸腔鏡下手術の工夫
石橋脩一
第 59 回日本小児外科学会中国四国地方会 2020 年 11 月 28 日
- 10) 膀胱内アプローチによる膀胱頸部閉鎖の経験
中原康雄
第 29 回日本小児泌尿器科学会 2021 年 1 月 31 日
- 11) 先天性中部尿管狭窄症の 1 例
花木祥二郎
第 29 回 日本小児泌尿器科学会 2021 年 1 月 31 日
- 12) 小児腎移植後、膀胱移植尿管逆流に関する要因の検討
高橋雄介
第 29 回日本小児泌尿器科学会 2021 年 1 月 31 日
- 13) 腎移植後 2 年の surveillance biopsy で蛍光抗体染色法による full-house pattern を呈した 1 小児例
高橋雄介
第 54 回日本臨床腎移植学会学術集会 2021 年 2 月 17 日
- 14) 岡山医療センター小児外科における小児泌尿器疾患の手術統計(2019 年 1 月～2020 年 12 月)
石橋脩一
第 326 回日本泌尿器科学会岡山地方会 2021 年 2 月 27 日

整形外科

診療部長 佐藤 徹
医長 竹内 一裕

● 診療科の特色

脊椎・脊髄外科、関節外科、外傷外科(骨折等)の高度専門治療

● 入院診療実績

1. 主要手術 年間手術件数 1869 件

	手術名	件数
1	骨折観血の手術(上肢)	118
2	骨折観血の手術(下肢)	212
3	人工関節置換術(股関節)	135
4	人工関節置換術(膝関節)	154
5	関節鏡下半月板縫合術	43
6	頸椎椎弓形成術	64
7	頸椎前方固定術	29
8	内視鏡下椎間板摘出術	103
9	腰椎椎弓切除術	110
10	PLIF-脊椎固定術	99

● 研究業績

1. 論文発表

- 1) T. Hirai; T. Yoshii; S. Ushio; J. Hashimoto; K. Mori; S. Maki; K. Katsumi; N. Nagoshi; K. Takeuchi; T. Furuya; K. Watanabe; N. Nishida; S. Nishimura; K. Watanabe; T. Kaito; S. Kato; K. Nagashima; M. Koda; K. Ito; S. Imagama; Y. Matsuoka; K. Wada; A. Kimura; T. Ohba; H. Katoh; M. Watanabe; Y. Matsuyama; H. Ozawa; H. Haro; K. Takeshita; M. Matsumoto; M. Nakamura; M. Yamazaki; M. Yuasa; H. Inose; A. Okawa; Y. Kawaguchi; Associations between Clinical Symptoms and Degree of Ossification in Patients with Cervical Ossification of the Posterior Longitudinal Ligament: A Prospective Multi-Institutional Cross-Sectional Study. Journal of Clinical Medicine.9(12):16.2020 Dec
- 2) K. Shinohara; M. Kaneko; R. Ugawa; S. Arataki; K. Takeuchi. The effectiveness of preoperative assessment using a patient-specific three-dimensional pseudoarticulation model for minimally invasive posterior resection in a patient with Bertolotti's syndrome: a case report. J Med Case Rep.15(1):68.2021 Feb
- 3) K. Shinohara; R. Ugawa; S. Arataki; S. Nakahara; K. Takeuchi. Charlson comorbidity index is predictive of postoperative clinical outcome after single-level posterior lumbar interbody fusion surgery. J Orthop Surg Res. 16(1):235. 2021
- 4) 大腿骨転子部骨折:②Sliding hip screw(SHS)固定
塩田直史

- スタンダード骨折手術治療 下肢 52-59 2021年1月10日
- 5) 大腿骨転子部骨折に対する short femoral nail による骨接合術後に大転子偽関節をきたした症例の検討
長谷川翼 川田紘己 金子倫也 黒田崇之 塩田直史 佐藤徹
骨折 42 4 1363-1367 2020年8月25日
- 6) 寛骨臼後壁骨折術後の外傷性股関節症に対して ALS アプローチで THA を行った 1 例
長谷川翼 黒田崇之 塩田直史 高田直樹 金子倫也 川田紘己 佐藤徹
中国・四国整形外科学会雑誌 32 3 69-69 2020年10月30日
- 7) 先天性無痛無汗症の Charcot 関節に生じた化膿性関節炎の 1 例
金子倫也 黒田崇之 塩田直史 高田直樹 川田紘己 佐藤徹
中国・四国整形外科学会雑誌 32 3 97-97 2020年10月30日
- 8) リバーズ型人工肩関節全置換術の術後成績
塩田直史 佐藤徹 黒田崇之
中国・四国整形外科学会雑誌 32 1 174-174 2020年4月15日
- 9) 脆弱性骨盤骨折には手術治療を行った方が歩行能力を維持できる
塩田直史 佐藤徹 黒田崇之 高田直樹 金子倫也 川田紘己 長谷川翼
中国・四国整形外科学会雑誌 32 1 215-215 2020年4月15日
- 10) 脆弱性骨盤骨折には手術治療を行った方が歩行能力を維持できる
塩田直史 佐藤徹 黒田崇之 高田直樹 長谷川翼
日本整形外科学会雑誌 94 3 727-727 2020年3月12日
- 11) 非定型大腿骨転子下骨折には augment plate を併用した髓内釘固定が有用である
塩田直史 佐藤徹 黒田崇之 金子倫也 川田紘己 長谷川翼
日本整形外科学会雑誌 94 3 946-946 2020年3月12日
- 12) Anterolateral approach を用いた THA において仰臥位は側臥位よりインプラント設置角度の outlier を減少させる
黒田崇之 塩田直史 高田直樹 金子倫也 川田紘己 佐藤徹
日本整形外科学会雑誌 94 2 325-325 2020年3月5日

2. 学会、研究会

- 1) 胸椎椎間板ヘルニアに対する胸腔鏡視下手術(VATS)の有用性
宇川 諒
第 23 回日本低侵襲脊椎外科学会学術集会 2020年9月25日
- 2) 胸椎後縦靭帯骨化症における米国麻酔学会術前状態分類の術後成績に及ぼす影響
篠原健介 宇川諒 竹内一裕 荒瀧慎也
第 53 回中国・四国整形外科学会 2020年11月28日
- 3) 術中ナビゲーションを使用した偽関節切除が有用であった Bertolotti 症候群の一例
篠原健介 宇川諒 竹内一裕 荒瀧慎也
第 15 回日本 CAOS 研究会 2021年3月5日
- 4) 頸椎後縦靭帯骨化症患者における圧迫高位別 K-line 評価 —頸椎アライメントおよび骨化占拠率の影響—

- 竹内 一裕 荒瀧 慎也 篠原 健介 宇川 諒
第 93 回日本整形外科学会学術総会 2020 年 5 月 21 日
- 5) 脊椎腫瘍(転移性脊椎腫瘍)と脊椎感染症に対する脊椎手術低侵襲化とリハビリテーション医療
竹内一裕 篠原健介 荒瀧慎也 塩田直史
第 57 回日本リハビリテーション医学会学術集会 2020 年 8 月 20 日
- 6) mini-open ALIF (mini-ALIF) - surgical treatment for spondylolisthesis -
竹内 一裕 荒瀧 慎也 篠原 健介 宇川 諒
第 14 回日本 CAOS(コンピューター支援整形外科)研究会 2020 年 9 月 2 日
- 7) 腰椎すべりに対する治療選択 -低侵襲の追求と選択肢の拡がり-
竹内一裕
第 49 回日本脊椎脊髄病学会学術集会 2020 年 9 月 7 日
- 8) 腰椎すべり症に対する小切開を用いた腰椎前方固定術(mini-ALIF)の利点と限界 腰椎変性疾患に対する前方単独手技の実際と限界について
竹内一裕 篠原健介 荒瀧慎也
第 49 回日本脊椎脊髄病学会学術集会 2020 年 9 月 7 日
- 9) 胸椎前方手術における胸腔鏡視下手技(VATS)という選択肢 - その可能性とリスクマネージメント -
竹内一裕
第 7 回日本脊椎前方側方進入手術学会(JALAS) 2021 年 1 月 30 日
- 10) 拍動する脳脊髄液の流れを想定した縦置き型 MRI 流動ファントムシステムの試作
竹内一裕
ロボティクス・メカトロニクス講演会 2020 in Kanazawa 2020 年 5 月 27 日
- 11) 脳脊髄液の動きを想定した MRI 用流動ファントムが作り出す往復流の可視化
竹内一裕
第 51 回学生員卒業研究発表講演会 2021 年 3 月 4 日
- 12) 非定型大腿骨転子下骨折には augment plate を併用した髄内釘固定が有用性である -臨床成績と有限要素解析による力学的検討-
塩田直史
第 93 回 日本整形外科学会学術総会 2020 年 6 月 11 日
- 13) 脆弱性骨盤骨折には手術治療を行った方が歩行能力を維持出来る
大塚憲昭
第 93 回 日本整形外科学会学術総会 2020 年 6 月 11 日
- 14) Management of the fractures around the acetabular component
塩田直史
第 46 回 日本骨折治療学会学術集会 2020 年 9 月 21 日
- 15) 大腿骨頸部骨折に対する骨接合術の限界 -頸部の外反と後屈-
塩田直史
第 46 回 日本骨折治療学会学術集会 2020 年 9 月 20 日
- 16) 大腿骨頸基部骨折に対し Prima hip screw side plate long を使用した治療成績

- 守屋真我
第 46 回 日本骨折治療学会学術集会 2020 年 9 月 20 日
- 17) 脆弱性骨盤骨折には手術治療を行った方が歩行能力を維持出来る
大塚憲昭
第 14 回 日本 CAOS 研究会 2020 年 9 月 22 日
- 18) Spring hook plate の pitfall
塩田直史
第 20 回 骨盤輪・寛骨臼骨折研究会 2020 年 9 月 27 日
- 19) 大腿骨頸部骨折に対する最新の医療 合併症対策
塩田直史
第 47 回 日本股関節学会学術集会 2020 年 10 月 23 日
- 20) 足関節果部骨折における術中 3D image の使用 —SIEMENS Cios spin と ARCADIS Orbic 3D
の比較—
守屋真我
第 15 回 日本 CAOS 研究会 2021 年 3 月 4 日
- 21) 後十字靭帯付着部裂離骨折に対する術中 3D イメージを併用した小切開後方アプローチ
高田直樹
第 15 回 日本 CAOS 研究会 2021 年 3 月 4 日
- 22) 踵骨骨折に対する治療の変遷と最新観血的治療(教育研修講演)
佐藤徹
第 93 回 日本整形外科学会学術総会 2020 年 8 月 31 日
- 23) 上腕骨骨幹部骨折に対する TEN の応用と手技の実際
佐藤徹
第 93 回 日本整形外科学会学術総会 2020 年 8 月 31 日
- 24) AO Trauma Master Course
佐藤徹
Web 開催 大腿骨遠位部骨折 2021 年 2 月 26 日
- 25) 脆弱性骨盤輪骨折における前方骨盤輪に対する逆行性恥骨枝スクリュー固定法の治療成績
川田紘己
第 46 回日本骨折治療学会学術集会 Web 開催 2020 年 9 月 19 日
- 26) CPP アプローチによる人工骨頭置換術の短期成績 子宮頸癌放射線治療後の脆弱性 骨盤輪
骨折に対する経皮的スクリュー固定法の有用性
川田紘己
第 135 回中部日本整形外科 災害外科学会・学術集会 Web 開催 2020 年 10 月 10 日
- 27) Anterolateral approach を用いた THA における仰臥位側臥位のインプラント設置角度の比較
黒田崇之
第 47 回日本股関節学会学術集会 Web 開催 2020 年 11 月 30 日
- 28) 骨盤輪骨折に対する LC-2-Sacral screw による手術治療
川田紘己
第 15 回日本 CAOS 研究会 2021 年 3 月 5 日

3. 講演

- 1) Depuy Synthes Trauma Webinar – Upper Extremity
佐藤 徹
ジョンソン・エンド・ジョンソン株式会社岡山営業所 2020年6月14日
- 2) Webinar – TEN(Titanium Elastic Nail)user’s
佐藤 徹
岡山医療センター 2020年10月3日
- 3) Pain Live Symposium in 岡山
佐藤 徹
第一三共株式会社岡山営業所 2020年12月3日

● 診療科の特色**1) 皮膚腫瘍の診断・治療**

ダーモスコピー、皮膚超音波検査などの非侵襲的検査や生検によって診断を行います。疾患によっては他施設と連携して遺伝子診断も行います。特に悪性腫瘍では、画像診断や早期のリンパ節転移を同定するセンチネルリンパ節生検などを用いて、病状や進行度を正確に把握したうえで過不足のない適切な治療をこころがけます。外科的治療が中心となりますが、病状に応じて放射線療法、化学療法も適用します。進行期の悪性黒色腫では分子標的薬、免疫チェックポイント阻害薬による治療が行われます。

2) 皮膚外科手術・処置

外科的治療を要する皮膚疾患の治療に積極的に対応しています。良性および悪性の皮膚腫瘍、母斑、重症軟部組織感染症、膿皮症、などが適応となります。

3) 難治性皮膚疾患(自己免疫性水疱症、乾癬、掌蹠膿疱症、脱毛症、など)の診断・治療

視診に加え、皮膚病理組織検査、蛍光抗体検査、血清学的手法などで診断します。遺伝性皮膚疾患では他施設との連携のもとに遺伝子診断を行うこともあります。疾患によっては薬物療法のほか理学療法(紫外線療法:PUVA, narrow-band UVB, エキシマライト, など)も併用して治療します。重傷乾癬、関節症性乾癬、などでは生物学的製剤による治療が行われています。最近では難治性じんま疹、重症アトピー性皮膚炎、掌蹠膿疱症、化膿性汗腺炎にも生物学的製剤の適応が広がっています。

4) 皮膚病変を伴う全身性疾患の診断・治療

膠原病、血管炎、血液疾患、など皮膚病変を伴う全身疾患の診断と治療に当たります。しばしば皮疹が全身疾患診断の糸口になります。

5) 他科疾患の皮膚合併症への対応

皮膚感染症や薬疹など、他科領域の患者さんに生じた皮膚合併症や皮膚トラブルに対応し、検査、診断と治療を行います。

6) 皮膚科の救急的疾患への対応

急性炎症性皮膚疾患、感染症(細菌、ウイルス)、など

7) 新生児、小児皮膚疾患への対応

皮膚炎、感染症(ウイルス、細菌)などの一般的疾患の他、遺伝性疾患、膠原病、などの診断と治療に関わります。

8) 皮膚病理診断

皮膚病理診断に重点を置き、病理部と連携して正確な診断を心がけます。

9) アレルギー検査

パッチテスト、プリックテスト、MED(最小紅斑量)測定、など

1. 主要手術(手術室で施行したもの) 年間手術件数:209 件

疾患名	症例数
良性腫瘍、母斑	112
悪性腫瘍	69
細菌感染症	5
皮膚潰瘍、褥瘡 等	5
膿皮症	7
その他	11

2. 入院主要疾患 臨床統計 年間入院件数:179 件

疾患名	症例数
悪性腫瘍	51
良性腫瘍、母斑	28
細菌感染症	32
ウイルス感染症	15
水疱症、膿疱症	14
薬疹、アレルギー	9
皮膚炎・紅斑症・蕁麻疹	7
膿皮症	6
皮膚潰瘍、褥瘡 等	6
熱傷・外傷	3
膠原病・血管炎	2
その他	6

3. 特殊検査法・治療

疾患名	件数
外来処置室での手術	80
皮膚生検	368
紫外線療法	334
ダーモスコピー	360
皮膚超音波検査	191
パッチテスト	14
プリックテスト	3
MED 測定	6

● 研究業績

1. 論文発表

- 1) 陰茎包皮に切除範囲が及んだ男性外陰部乳房外パジェット病の包皮温存例の検討
安富陽平、渡邊充希子、眞部恵子、浅越健治
日本皮膚外科学会誌 24 1 74-75 2020年9月
- 2) 潜在性二分脊椎を伴った coccygeal pad の1例
池田賢太、松三友子、眞部恵子、浅越健治
臨床皮膚科 74 11 853-85 2020年10月1日
- 3) 皮膚悪性腫瘍診療ガイドライン第3版 皮膚血管肉腫診療ガイドライン 2021
藤澤康弘、浅越健治、増澤真実子、大塚篤司、内博史、松下茂人、秦洋郎、早川和重、古賀弘志、菅谷誠
日皮会誌 131 2 245-277 2021年2月20日

2. 学会、研究会

- 1) 多中心性に病変を認めた男性外陰部乳房外 Paget 病 3 例の検討
瀧川 充希子
第 119 回日本皮膚科学会総会 2020年6月4日
- 2) 肺腺癌に対するラムシルマブ投与中に多発性毛細血管拡張性肉芽腫を生じた1例
眞部 恵子
第 281 回日本皮膚科学会岡山地方会 2020年9月6日
- 3) Hyperkeratosis of the nipple and areola (nevroid form)の1例
浅田 志乃舞
第 281 回日本皮膚科学会岡山地方会 2020年9月6日
- 4) 外傷性神経腫と診断した女性外陰部有痛性結節の1例
眞部 恵子
第 35 回皮膚外科学会総会・学術大会 2020年10月17日
- 5) 感染性心内膜炎に伴って発症し、ANCA 陽性であった感染性血管炎の一例
瀧川 充希子
第 72 回日本皮膚科学会西部支部学術大会 2020年10月25日
- 6) 腎移植後に生じた移植後リンパ増殖性疾患の1例
眞部 恵子
第 36 回日本皮膚悪性腫瘍学会学術大会 2021年1月8日
- 7) 筋酵素の著明な上昇を認め壊死性筋膜炎と鑑別を要した丹毒2例
水田 康生
第 282 回日本皮膚科学会岡山地方会 2021年1月16日
- 8) 顔面神経麻痺と声帯麻痺を合併した帯状疱疹の1例
瀧川 充希子
第 282 回日本皮膚科学会岡山地方会 2021年1月16日

9) 長期にわたって増大し大型のサルコイド様肉芽腫性腫瘤を形成した BCG 副反応の 1 例

浅田 志乃舞

第 282 回日本皮膚科学会岡山地方会

2021 年 1 月 16 日

● 診療科の特色

1. 総合周産期母子医療センター

私たちの施設は、平成 16 年に新生児科とともに岡山県から総合周産期母子医療センターに指定されて以来、麻酔科をはじめ各科のバックアップをいただきながら、他の周産期センターと協力して、岡山県の母子保健の向上に努めてきました。当院は、小児外科も充実しており、多数例の小児外科疾患を胎児期から小児外科医とともにフォローさせていただいています。

私たちの施設では、奇形をもった児や早産などで出生後NICUに入院となる児の両親には、新生児科や小児外科から予想される出生後の児の状況について説明をしてもらうことを大事にしています。ご両親は、自分のこどもが出生後にどのような治療を受け、どのように育っていくか、について心配されています。ご両親にとってすごく大切なことと考えています。

● 入院診療実績

1. 婦人科 主要手術

年間手術件数 44 件

	手術名	件数
1	子宮附属器腫瘍摘出術(腹腔鏡)	11
2	子宮頸部円錐切除術	7
3	腹式単純子宮全摘術(ATH)	7
4	膣式単純子宮全摘術(LAVH)	4
5	附属器腫瘍摘出術(開腹)	4
6	膣式単純子宮全摘術+膣会陰形成術	3
7	子宮内膜ポリープ切除術	2
8	子宮筋腫核出術(腹腔鏡)、(子宮鏡下)	2
9	子宮内膜搔爬術	1
10	膣壁腫瘍摘出術	1

2. 産科診療実績

総分娩数 390、出生児数 440(死産 3)、多胎分娩数 46(双胎 42、品胎 4)でこの年度の帝王切開率は 35.4%でした。以前に比べると若干増加傾向にありますが、原因の一つとして母体年齢の高齢化が考えられます。母体年齢の高齢化は著しく、昨年は全体の約半数(45%)を 35 歳以上の妊婦が占め、40 歳以上の妊婦では 12%を占めますが、当院の帝切率は周産期センターの中では全国的にみても低率のグループで、既往帝切後の経膣分娩や双胎妊娠の経膣分娩、未熟児や低置胎盤の経膣分娩など、できるだけスタンダードな分娩を目標にしてきた結果と考えています。しかし、こういった分娩は緊急帝王切開のリスクや出生時の児のリスクも高いため、麻酔科医や新生児科医の昼夜を問わないバックアップが必要であり、各科の協力体制の賜物と言えます。

3. その他

多胎妊娠は、単胎妊娠に比べ妊娠および分娩におけるリスクが高いため、2016年10月より、毎週火曜日と水曜日の午後に多胎外来を設置し、専属医師による継続的な管理を行い、必要があれば適宜、入院していただき、より厳密な管理を行っています。

● 研究業績

1. 論文

- 1) K. Tada; Y. Miyagi; K. Nakamura; M. Yoroazu; E. Fukushima; K. Kumazawa; M. Nakamura; M. Kageyama. The Optimal Prepregnancy Body Mass Index for Lactation in Japanese Women with Neonatal Separation as Analyzed by a Differential Equation. Acta Medica Okayama.75(1):63-69.2021 Feb
- 2) 施設規模によって妊娠 41 週以降の周産期予後に差は生じるか
橋本一郎, 赤堀洋一郎, 井上誠司, 楠目智章, 丹羽家泰, 多田克彦
現代産婦人科 2019 68 77-82 2020年6月1日
- 3) 母親の側からみた母乳育児の科学的エビデンス -母乳育児と肥満-
多田克彦
日本母乳哺育学会雑誌 2020 14 60-67 2020年7月1日
- 4) 母乳育児と母親のこころの問題 -母親のニーズと不安の原因-
多田克彦
日本母乳哺育学会雑誌 2020; 14 80-88 2020年7月1日
- 5) 妊婦, 授乳婦における薬に対する意識調査
平澤ゆみこ, 上野杏菜, 羽藤加奈恵, 田頭尚士, 山本 宏, 常久幸恵, 多田克彦, 中村和恵
日本小児臨床薬理学会雑誌 2019 32 125-132 2020年8月1日
- 6) 無症候性の単胎前置胎盤症例の予定帝王切開を妊娠 38 週に設定する妥当性の検討
吉田瑞穂, 塚原紗耶, 熊澤一真, 萬 もえ, 大岡尚実, 沖本直輝, 立石洋子, 中村和恵, 中村 信, 影山 操, 多田克彦
日周産期・新生児会誌 2020 56 236-241 2020年9月1日
- 7) 双胎間輸血症候群とその周辺疾患に対するレーザー治療の現状と未来への展望
多田克彦, 佐世正勝
日本新生児成育医学会雑誌 2020 32 73-76 2020年10月1日
- 8) 羊水量増加症例における妊娠糖尿病発生率に関する検討
瀬村肇子, 多田克彦, 沖本直輝, 吉田瑞穂, 塚原紗耶, 立石洋子, 熊澤一真
現代産婦人科 2020 69 33-38 2020年12月1日
- 9) Q59 前置胎盤で早産治療を行う際の注意点は? 中井章人, 松田義雄, 大槻克文編集. 早産のすべて -基礎から臨床, DOHaD まで-
多田克彦
株式会社メジカルビュー社, 東京:2020 199-201 2020年12月1日
- 10) 分娩時大量出血における希釈性凝固障害の臨床データの特徴: 多施設共同後ろ向き症例集積研究
多田克彦, 宮木康成, 安日一郎*, 吉田瑞穂, 萬 もえ, 前川有香*, 大蔵尚文*, 川上浩介*, 山口建*, 小川昌宣*, 兒玉尚志*, 野見山 亮*, 水之江知哉

* NHO 小児・周産期ネットワーク共同研究グループ

日周産期・新生児会誌 2020 56(3) 417-423

2020 年 12 月 2 日

2. 学会発表

- 1) 双胎の切迫早産症例に対し子宮頸管ペッサリー留置後に多量出血を伴う腔壁裂傷を認めた 1 例
中村一仁

第 72 回日本産科婦人科学会

2020 年 4 月 25 日

- 2) 胎児輸血を施行した一例と安全な輸血量に関する考察
相本法慧

第 72 回日本産科婦人科学会

2020 年 4 月 26 日

- 3) フィブリノゲン値および FDP 値からみた分娩時大量出血症例における産科 DIC スコアの妥当性の
検証

多田克彦

第 42 回日本血栓止血学会

2020 年 6 月 18 日

3. 講演

なし

● 診療科の特色

1. 当科では、眼科領域全般の多岐にわたる疾患を扱っています。ことに、眼と眼付属器の腫瘍、眼形成再建外科(担当・大島)、網膜硝子体疾患(担当・江木)、黄斑部疾患(担当・尾嶋)の診療に、意欲的に取り組んでいます。

● 入院診療実績

1. 主要手術 年間手術件数 890 件

	手術名	件数
1	水晶体再建術(単独)	334
2	網膜光凝固術	175
3	硝子体手術	121
4	後発白内障手術	66
5	眼瞼結膜腫瘍手術(悪性含む)	66
6	結膜腫瘍摘出術	40
7	眼窩腫瘍手術(悪性含む)	27
8	緑内障手術	26
9	眼瞼形成手術	15

● 研究業績

1. 論文

- 1) Y. Sumii; N. Asada; Y. Sato; K. Ohshima; M. Makita; Y. Yoshimoto; Y. Sogabe; K. Imajo; Y. Meguri; D. Ennishi; H. Nishimori; N. Fujii; K. I. Matsuoka; T. Yoshino; Y. Maeda. Treatment outcomes of IgG4-producing marginal zone B-cell lymphoma: a retrospective case series; International Journal of Hematology.112(6): 780-786.2020 Dec

2. 学会、研究

眼瞼結膜に多数の黒色斑点を生じた一症例

大島浩一、神農陽子、永喜多敬奈

第53回眼科臨床病理組織研究会

2020年7月1日

3. 講演

なし

● 診療科の特色

1. 当科は平成 11 年 7 月より開設された部門である。

当院では、日本形成外科学会専門医 2 名が診療を行っている。また日本形成外科学会による認定施設となっており、形成外科専門医資格獲得のための研修施設として形成外科医の育成に取り組んでいる。診療の中心は小児先天異常となっているが形成外科のほぼ全般にわたる診療を行っている。またレーザー治療も積極的に行っており、各種のあざ、血管腫等に対し色素レーザー、Q スイッチルビーレーザー、CO2 レーザーを用いて治療を行っている。小児であざの面積が広範囲の場合は入院、全身麻酔下での治療も行っている。

● 入院診療実績

1. 主要手術 年間手術件数 607 件

	手術名	件数
1	1. 外傷	25
2	2. 先天異常	62
3	3. 腫瘍	155
4	4. 瘢痕・瘢痕拘縮・ケロイド	9
5	5. 難治性潰瘍	11
6	6. 炎症・変性疾患	15
7	7. 美容(手術)	0
8	8. その他	19
9	9. レーザー治療	311

● 研究業績

1. 学会、研究会

- 1) T. Hiraoka; H. Senoo; Y. Yamazaki; K. Suenobu; H. Tsukahara. Polydactyly of the Foot Diagnosed from a Minor Nail Problem. Acta Medica Okayama 2020 Oct;74(5):427-429

- 2) 巨大色素性母斑に対する CO2 レーザー照射療法

末延 耕作

第63回日本形成外科学会総会・学術集会

2020 年 8 月 26 日

● 診療科の特色

当科は、2018 年度末にスタッフ全員が退職して 2019 年度から医師1名での診療体制となり、2020 年度も同様の体制で幕を開けた。外来や救急応需に多少の制限はあるものの、岡山大学脳神経外科から週3回非常勤医1名の派遣を受けつつ、地域中核病院の脳神経外科として可能な限りその役割を維持してきた。2020 年 12 月より、待望の常勤医師が 1 名加入し、医師 2 名での診療体制となった。現在もお人員不足であることは否めないが、救急応需における問題はほぼ解消されている。

診療内容としては、出血性脳卒中（脳出血およびくも膜下出血）、脳腫瘍（原発性および転移性）、頭部外傷を中心として手術治療ないし保存的治療を行っている。手術においては、これまでの接眼レンズを覗く手術用顕微鏡の概念を覆す新世代の顕微鏡（モニター画面を見ながら行う外視鏡）をいち早く導入し、手術における様々な新しい試みを始めている。また、『手術で治す認知症』と言われる正常圧水頭症のシャント手術も増加させている。引き続き、『信頼できる脳神経外科』であり続けられるよう、地域医療における役割を果たしていく所存である。

● 入院診療実績

1. 主要手術 年間手術件数 85 件

	手術名	件数
1	慢性硬膜下血腫穿孔洗浄術	27
2	水頭症手術(シャント手術)	15
3	頭蓋内腫瘍摘出術	8
3	頭蓋内血腫除去術(開頭)(硬膜下)	8
5	頭蓋内血腫除去術(開頭)(脳内) (含、動静脈奇形 3 件、海綿状血管腫 1 件)	7
6	穿頭脳室ドレナージ術	5
7	脳動脈瘤頸部クリッピング術	3
8	定位脳腫瘍生検術	2
9	減圧開頭術	2
10	その他	8

● 研究業績

1 学会

- 1) 当院での 4K 3D 外視鏡の初期使用経験

吉田 秀行

第 90 回日本脳神経外科学会 中国四国支部学術集会

2020 年 12 月 5 日

● 診療科の特色

心臓血管外科では、心臓・大動脈疾患および末梢血管疾患に対する診断と手術治療にあたっており、3名の心臓血管外科専門医と修練医2名による5名の医師による診療体制となっています。スタッフは岡田（専門領域：成人心臓、血管外科）、中井（大動脈外科、血管外科、ステントグラフト）、畝（成人心臓、大動脈外科）の専門医3名とレジデントの鳥家医師、井上医師の2名、診療看護師1名の全員であらゆる領域の患者さんを担当、診療し、年間260例余りの症例を手術しています。特に緊急手術に際しては循環器内科、麻酔科、中央手術部、救急部など多くのスタッフの協力のもとに夜間、土曜・日曜を問わず行える体制ができています。

心臓弁膜症のうち大動脈弁は弁置換術が主流ですが、僧帽弁においては自己弁を温存する弁形成術を主に行う方針としています。最近では、比較的小さな傷で行う低侵襲手術（MICS: Minimally Invasive Cardiac Surgery）が広まってきており、当院においても、MICSを導入しています。

人工弁置換術では機械弁と生体弁（ウシやブタからできている弁）の2種類から使用する弁を選ぶ必要があります。機械弁はワーファリンを一生涯飲む必要がありますが耐久性が高く比較的若い患者様に向いています。一方、生体弁はワーファリンを中止できるものの10～15年程度で壊れることが多く比較的高齢の患者様に向いています。「生体弁がどのような患者さんにおいて耐久性が高いか（長持ちするか）」という研究結果を当院医師が欧米学会誌に発表しており、私たちが専門とする分野でもあります。

また生体弁の耐久性向上は数十年にわたり世界中で研究と開発が行われてきた分野で具体的には、動物組織（ウシやブタ）に対する異物反応を抑える処理や抗石灰化処置（経時的な石灰化を抑える処置）です。新しい生体弁の方が一般的に高額となるため長期余命が見込めない高齢者にはひと昔前の生体弁が使用される傾向があります。我々は手術を受けていただく患者さん全員に長生きしていただき、人工弁も長持ちしてほしいと思っています。当院では、大動脈弁生体弁には2018年夏に国内使用が可能となった最新抗石灰化処理が行われているInspiris生体弁（Carpentier-Edwards社）を全例に使用しています。

虚血性心疾患（狭心症・心筋梗塞）の手術では、高齢者やリスクの高い患者様の増加を考慮し、人工心肺を使用しないオフポンプ冠動脈バイパス術（心臓が動いたまま行うもので少し難易度が高くなる）により、手術リスクの軽減を図っています。

肺高血圧症のうち、慢性血栓塞栓生肺高血圧症に対しては循環器科のカテーテル治療とともに当科でも肺動脈内膜摘除術が行われています。

大動脈瘤や大動脈解離に対しては、臓器保護の進歩、人工血管の改良などにより安全に行われるようになってきました。さらに高齢者やリスクの高い患者様に対しては、ステントグラフトを用いて、より低侵襲な手術を目指しています。

末梢動脈疾患はASOが主ですが、間欠性跛行肢に対しては、症状や活動性などにより、運動療法・カテーテル治療・手術を組み合わせで治療しています。下肢切断の危

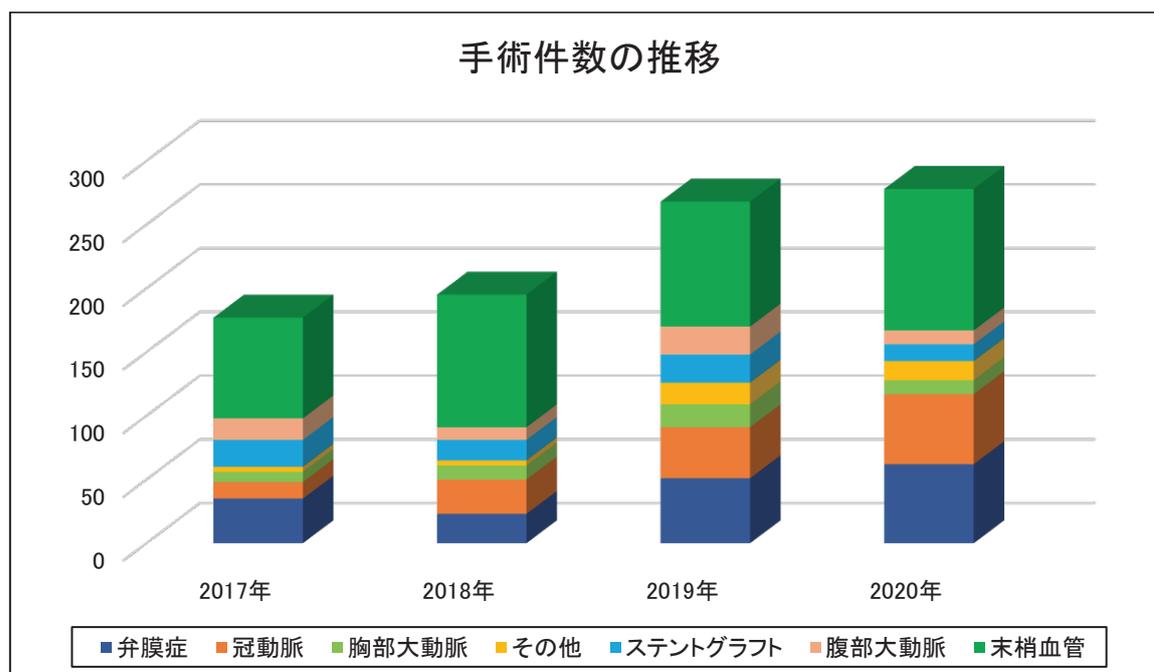
険性がある重症虚血肢に対しては遠位までのバイパスも考慮します。

下肢静脈瘤治療では、カテーテルを下肢静脈内に挿入し放出される熱により、静脈壁を収縮・閉塞させてしまう血管内治療を導入しました。カテーテルを差し込む小さな傷口だけで済ませることが出来ます。

● 手術件数の推移

手術数合計(表中の太字の数字)に重複カウントはありません

	2017年 1月～12月	2018年 1月～12月	2019年 1月～12月	2020年 1月～12月
心臓胸部大動脈手術(開心術)	45	64	111	124
弁膜症手術(複合手術含む)	35	23	51	62
冠動脈手術(複合手術含む)	13	27	40	55
胸部大動脈手術(複合手術含む)	8	11	18	11
その他(心室中隔穿孔、心臓腫瘍、 肺動脈血栓内膜摘除など)	4	4	17	15
ステントグラフト内挿術	21	16	22	13
胸部大動脈	8	9	11	5
腹部大動脈	13	7	11	8
腹部大動脈手術(開腹)	17	10	22	11
末梢血管手術	79	104	98	111
合 計	162	194	253	259



● 2020年度の取り組み

緊急症例など他院からのご紹介に対して、心臓血管外科医同乗のもと救急車(ドクターカー)でお迎えに伺っています。

● 研究実績

1. 論文発表

- 1) Acute mitral valve endocarditis at the 24th gestational week.
Masuda Z, Miyamoto Y, Une D, Inoue Y, Tateishi A, Yokota Y, Nakai M, Okada M. Gen Thorac Cardiovasc Surg. 2020 Dec;68(12):1457-1460. PMID: 31865599 68 12 1457-1460. 2020
- 2) Long-term clinical outcomes of the Toronto stentless porcine valve: 15-year results from dual centers.
Une D, Karkhanis R, David TE, Machida D, Masuda M, Goldman BS. J Card Surg. 35 9 2279-2285 2020
- 3) Influence of Type 2 Endoleaks on Long-Term Outcomes after Endovascular Repair for Abdominal Aortic Aneurysms: A National Hospital Organization Network Study for Abdominal Aortic Aneurysms in Japan.
Sakaki M, Handa N, Onohara T, Okamoto M, Yamamoto T, Shimoe Y, Kasashima F, Kawasaki M, Une D, Imai K, Mukaihara K, Ishiguro S; National Hospital Organization Network Study Group in Japan for Abdominal Aortic Aneurysm. Ann Vasc Surg. 64 116-123. 2020

2. 学会、研究会

- 1) 弁膜症術後DOACの使用法について
畝 大
Cardiovascular Surgery Joint Meeting ～抗血栓療法 Up To Date～ 2020年9月10日
- 2) 生体弁と抗凝固療法
畝 大
第51回 日本心臓血管外科学会学術総会 モーニングセミナー 2021年2月20日

3. 講演

- 1) Cardiovascular Surgery Joint Meeting ～抗血栓療法 Up To Date～
畝 大
第一三共株式会社岡山営業所 2020年9月10日

● 診療科の特色

主に他院からの紹介にて入院での治療・手術が必要な患者さんの診察をしています。頭頸部悪性腫瘍(口腔癌・咽頭癌・喉頭癌など)を始め、耳鼻咽喉科領域の良性腫瘍、扁桃炎、副鼻腔炎、中耳炎等の耳鼻咽喉科の一般診療を手術・入院加療を中心に行っています。現在、耳鼻咽喉科専門医 3人+レジデント1人体制で担当しています。副鼻腔疾患は内視鏡を用いた手術的治療、中耳・喉頭の領域では機能再建をめざした治療、頭頸部悪性腫瘍では手術や放射線化学療法を併用した治療を行っています。地域の開業医の先生方と協力しながらより良い医療を提供できるよう努力していきます。

● 入院診療実績

1. 主要手術

年間手術件数 709 件(同時に両側したものは2件とし、別の手術はそれぞれカウントする)

年間手術患者数 237 人(1人に対して別の日に手術を行った場合は2人とカウントする)

	手術名	件数
1	口蓋扁桃手術(摘出)	170
2	内視鏡下鼻内副鼻腔手術	110
3	アデノイド切除術	41
4	鼻中隔矯正術・粘膜下鼻甲骨切除術	30
5	喉頭微細手術	23
6	耳下腺腫瘍摘出術	14
7	咽頭悪性腫瘍手術	8
8	喉頭形成手術	8
9	中咽頭腫瘍摘出術	5
10	頸部郭清術	5

2. その他(2020年度の特別な取り組み)

1) 学会発表・論文発表

a) 岡山大学を中心とした頭頸部外科の治療の研究グループに参加しています。

● 研究業績

- 1) T. Makino; Y. Orita; Y. Gion; T. Tachibana; S. Takao; H. Marunaka; K. Miki; N. Akisada; Y. Akagi; T. Yoshino; K. Nishizaki; Y. Sato; MACC1 expression is an indicator of recurrence in early-stage glottic cancer; Jpn J Clin Onco.50(4); 392-398.2020 Apr
- 2) N. Akisada; K. Nishimoto; S. Takao; Y. Gion; H. Marunaka; T. Tachibana; T. Makino; K. Miki; Y. Akagi; M. Tsumura; T. Toji; T. Yoshino; K. Nishizaki; Y. Orita; Y. Sato; PD-L1 expression in tongue squamous cell carcinoma; Medical Molecular Morphology.54(1); 52-59.2021Mar

● 診療科の特色

1. 現在スタッフ 7 名、研修医 2 名で、病院の中央部門である手術室での麻酔管理と集中治療室での治療を行っています。

● 入院診療実績

1. 麻酔科管理 2,998 例
2. ICU 管理症例 451 例(術後症例 310 例、非術後症例 141 例)

● 研究業績

1. 論文発表
 - 1) スガマデクス投与後に致死性不整脈から心停止を来し、「冠攣縮」が疑われた1症例
篠井尚子、寒竹倫子、前田麻里、株丹浩二
麻酔 69 10 1110-1113

2020 年 10 月 1 日